

# 忘れられた遵法意識

N・K 建設業（36歳）

「交通ルール」、当時の私の頭の中には漠然としかありませんでした。毎日、車の運転をするにも関わらず、交通事故は私には無縁のもの、私は事故を起こさない、自分勝手にそう思い込んでいました。事件を起こすまでは。

ある年の10月、私は、今なら誰もが持っているスマートフォンを片手に持ちながら運転するようになっていました。罪の意識などどこにもなく、ネットニュース、天気予報、メール、ゲームアプリなど様々なことをして運転をしていました。スマホ依存症だったと思います。事件当日もそれまでと同様にスマートフォンを片手に運転を続けていました。

当時、運転をしていた道路は小学校が近くにあり、通学路でした。時間帯は夕方、少し立ち止まり、冷静に考えれば分かる

事ですが、小学生が下校している時間帯です。十分な注意をしなければなりません。私はスマートフォンでゲームに夢中になり、注意散漫でした。信号のない交差点が見え、それと同じに小学生の列が見えました。小学生は止まってくれただろう、私は勝手にそう思い込んでいました。そのままスマートフォンに目を落としたまま、交差点に進入すると、次の瞬間、目の前に小学生が見え、ドンと音がして、車の下に小学生が消えたのです。

その後、事故現場で私は逮捕されました。警察署での取調べ中に、被害者の方が亡くなられたと聞き、自分の血の気が引いていくのを今でも覚えています。この先、自分はどうなってしまうのか、家族や仕事は？目の前が真っ暗になりました。約半年後、刑事裁判が始まり

ました。ご遺族の方の意見陳述が行われ、「息子を返せ」と言われたことは今でも耳から離れません。ご遺族の方の怒り、悲しみ、苦しみなど悲痛な思いが胸に刺さりました。当たり前です。私は小学生の命を奪ってしまったのです。未来ある命を奪ってしまいました。生きていれば、夢や希望に満ちあふれた生活を送っていたことでしょう。ご遺族の方は、これからの子供の成長を楽しみにしていたに違いありません。理不尽なことでも命を奪われた被害者の方の無念、ご遺族の方の心情は想像を絶するものだと思います。私は取り返しのないこととを後悔してしまいました。謝罪してもし尽くせるものではありません。

禁固3年の判決を受け、私は受刑中の身です。何故ある時、スマートフォン片手に運転したのか、事件から2年以上経過しましたが、後悔が消えることはありません。事件後、無職になった私の代りに妻はパートタイムからフルタイムへの仕事に変更を余儀なくされ、子供、両親にも負担や心配を掛けてしまっています。それでも、私を支え続けてくれ、私の帰りを待っていています。妻をはじめ家族には心から感謝しています。今、毎日の受刑生活を通じて、罪と向き合っています。一生をかけて償いをしていきます。私に何ができるのか、私の犯してしまった取り返しのない罪をどうすれば正面から背負っていけるのか、日々考えながら反省しています。しかし未だ答えは見つかっていません。社会復帰した時が本当の償いの始まりだと思っています。その答えが出せるよう精一杯努力して生活していきます。

「交通ルール」、小学生でも守れるルールです。大人の私は守れません。ルール、法律を守るといふ考えを軽視してしまいました。結果、人の命を奪うという取り返しのないことをしてしまいました。「ルールを守る」それは社会で生き

て行く上でとても重要で大切なことです。小さなルール、細かい約束ごとでもしっかり守る責任と義務があります。交通法規にしても同じことが言えます。

私は受刑生活を通じて、気付かされ、勉強させられました。ルールをないがしろにした代償は計り知れません。安易な気持ちでこれくらいならと考えることがどれだけ愚かで馬鹿げているか痛感しています。何が大切で何が大事なことが、立ち止まって考え、間違いの無い、選択、答えが出せる人間になろうと思います。

最後にありますが、交通事故の被害者、ご遺族の方をはじめ、加害者、その家族が二度と同じような思いをすることがないよう、悲惨な交通事故の無い世の中になる事を切に願います。

料

「贖いの日々」第54集より抜

転載・二次使用を禁止します。